

# 学校だより



令和3年10月29日  
横浜市立二谷小学校  
校長 矢島 孝幸

## 季節を感じて…

学校長 矢島 孝幸

朝夕の厳しい寒さに冬の訪れを感じる今日この頃です。子どもたちの装いも変わってきました。半袖で活動する子どもを見て、「おっ、元気だな～」と感じてしまいます。先日、登校中の子どもにあいさつしていると「校長先生、どうしてオレンジの上着を着ているの？」と1年生に聞かれました。「寒くなってきたからだよ。」と返すと、「ふ～ん。」と不思議そうな顔をして通り過ぎていきました。子どもにとっては、季節の変化より、普段と違う服装の方が興味深かったようです…。

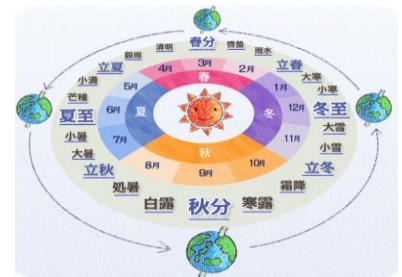
「暦の上で、今日は〇〇を迎えました。」という表現をよく耳にしませんか。日本には「春夏秋冬」の四季があります。さらに「夏至・冬至」「春分・秋分」「立春・立夏・立秋・立冬」と、よりその季節に合った言葉があります。それをさらに詳しく表す「二十四節気（にじゅうしせっき）」という言葉をご存じでしょうか…？二十四節気は、毎年同じ時期に同じ節気がめぐってきます。そして、節気の間隔が一定で半月ごとの季節変化に対応できるので、天候に左右される農業の目安として大変便利なものでした。季節を知るよりどころでもあったため、天候や生き物の様子を表す名前がつけられ、今でも年中行事や時候の挨拶など色々なシーンで用いられています。今は秋の最後を表す節気となっており、【霜降（そうこう）】です。これは、毎年10月23日頃から約半月の期間を表す節気です。早朝に霜が降り始める頃という意味で、晩秋を迎え、北の方では朝霧が降り、山々は紅葉に染まる季節を表す節気です。次は【立冬（11月7日頃）】を迎えます。まさに季節のその時々々の自然の様子を端的に表した表現方法です。春夏秋冬を表す節気は次の通りです。

【春】：立春・雨水・啓蟄（けいちつ）・春分・清明・穀雨（こくう）

【夏】：立夏・小満・芒種（ぼうしゅ）・夏至・小暑・大暑

【秋】：立秋・処暑・白露・秋分・寒露（かんろ）・霜降

【冬】：立冬・小雪・大雪・冬至・小寒・大寒



馴染みの薄い節気もありますが、自然を的確に表す節気名として「なるほど！」と納得できる由来があるので、調べてみると面白いです。日本の伝統や文化の良さを感じられると思います。



運動会に向け、各学年の演技練習が活発に進んでいます。子どもたちは、一生懸命かつ真剣に取り組んでいます。コロナ禍の中での運動会となりますが、一人一人の輝き（ヒーロー）、仲間同士の団結（一致団結）の姿をご覧いただければと思います。全力で頑張り、思い切り躍動する子どもたちの姿を楽しみにしてください。私も初めての運動会を期待しています。